

# 結 果 の 概 要

## 1 出生数は減少

出生数は107万35人で、前年の109万1156人より2万1121人減少し、出生率(人口千対)は8.5で前年の8.7を下回った。合計特殊出生率は1.37で前年と同率となった。(第1表)

出生数を母の年齢(5歳階級)別にみると、15～34歳の各階級及び50歳以上では前年より減少したが、35～49歳の各階級では前年に引き続き増加した。

合計特殊出生率を母の年齢(5歳階級)別にみると15～29歳の各階級では減少し、30～49歳の各階級では上昇した。なお、最も合計特殊出生率が高いのは30～34歳の階級となっている。

出生順位別にみると出生数はいずれの順位についても前年より減少し、合計特殊出生率は第1子は上昇したが、第2子、第3子以上は低下した。母の年齢(5歳階級)別と併せてみると、出生数は35～49歳の各階級でいずれの出生順位についても前年より増加した。合計特殊出生率は30～34歳の階級では第1子は上昇、第2子、第3子以上は低下したが、35～44歳の各階級ではいずれの出生順位についても前年を上回った。(第4表、第5表)

## 2 死亡数は減少

死亡数は114万1865人で、前年の114万2407人より542人減少し、死亡率(人口千対)は9.1で前年と同率となった(第1表)。

悪性新生物の死亡数は34万4105人で、死亡率(人口10万対)は273.5であり、死亡総数の30.1%を占めて死因順位の第1位となっている。第2位は心疾患、第3位は脳血管疾患である。(第6表)

年齢調整死亡率(人口千対)は男5.4、女2.7で前年より男は0.2、女は0.1それぞれ下回った(第1表)。

## 3 自然増減数は減少

出生数と死亡数の差である自然増減数は△7万1830人で、前年の△5万1251人より2万579人減少し、自然増減率(人口千対)は△0.6で、前年の△0.4を下回り、数・率ともに3年連続でマイナスとなった(第1表、第2表-1、第2表-2)。

## 4 死産数は減少

死産数は2万7005胎で、前年の2万8177胎より1172胎減少し、死産率(出産(出生+死産)千対)は24.6で、前年の25.2を下回った(第1表)。

## 5 婚姻件数は減少

婚姻件数は70万7734組で、前年の72万6106組より1万8372組減少し、婚姻率(人口千対)は5.6で、前年の5.8を下回った(第1表)。

## 6 離婚件数は増加

離婚件数は25万3353組で、前年の25万1136組より2217組増加し、7年ぶりに増加した(第1表、第2表-1)。

離婚率(人口千対)は2.01で、前年の1.99を上回った(第1表)。